

～食べることの幸せ・楽しさを考える市民の会～
特定非営利活動法人 ハッピーート大崎

第45号



Happyeat

ハッピーート通信

発行日：令和3年10月1日
発行所：宮城県大崎市古川福沼3-9-86
特定非営利活動法人ハッピーート大崎
電話番号：090-8610-8870
FAX番号：0229-22-7880
活動場所：吉野作造記念館ラウンジ
宮城県大崎市古川福沼 1-2-3

みんなと一緒に食べたーい 

何の花でしょうか；作物・野菜の花シリーズ第31弾「秋の花」



①

新型コロナウイルス感染症発生から、1年半。マスクや手洗い3密回避。ワクチン接種も終了したものの、先の見通しが無い状況です。新型コロナ感染症患者の後遺症も心配なことです。

穫り入れの秋、読書の秋、食欲の秋、物思いにふける秋・・・

私は、大崎市田尻生まれの田尻育ちです。家の近くには、加茂神社があり、いつも私の遊び場でした。お祭りは、8月22日がよごもり（前夜祭）で23日は本祭りです。お祭りの当日は、親戚の方々が来ていました。お赤飯・煮しめ・酢の物・刺身・とんかつ等いつものないごちそうでおもてなしでした。お祭りは、山車が出て稚児行列もあったように思いだされます。夜になると、綿あめやかき氷などの屋台が出て神社の境内ではお神楽や歌謡ショー等、人が動くことができない位ににぎわいました。残念ながら、今年も昨年同様新型コロナウイルス感染症により、神社のお祭りはありませんでした。今年のお祭り当日には、一人暮らしの母の所に、隣近所からお赤飯や変わりご飯等の差し入れがあり、昔からのつながり＝コミュニティの存在を感じる事ができました。

ハッピーート大崎は、‘食べる事の幸せと楽しさを考える市民の会’として活動を開始して12年目です。補助金をいただきながら活動場所である吉野作造記念館ラウンジを会場として「子どものたより場事業」「キリンシルバー「力」事業」を通して、子どもと高齢者・障がい者等と共に「作って食べる」事により「食べる事」を考えてきたNPO法人です。食べる事は、マスクをはずして感染の確立を高めてしまいます。どうしても活動ができない事態であると言えます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの生活の制限と共に、当会の活動制限も続いています。活動制限の中でもできる事を探しながらの活動はしているのですが、そろそろ活動が再開できないかと思う毎日です。第5波、第6波・・・「みんなと一緒に作りたい！食べたい！」そんな思いが強くなっている「2021年穫り入れの秋」なのです。もう少し！もう少し！と思っています。

たくさんの方々のご指導ご支援に感謝いたしますと共にご意見、ご感想をいただければ幸いです。

(千島 優子)

①無花果 いちじく ②モロヘイヤ ③里 芋

事業報告 1

コロナ禍で行われている大崎市介護予防普及啓発事業

担当 岩崎 三枝

本事業は大崎市からの受託事業として平成 23年度から実施しています。最初は、栄養改善事業から始まったのですが、2年後には、口腔機能向上事業を受託するようになりました。

大崎市ではいつまでも住み慣れた地域で高齢者の皆様が生き生きと自分らしく暮らし続けることができるように支援し、地域における自主的な介護予防に資することを目的として行っています。

○対象者：大崎市に住所を有する65歳以上の方。

○実施場所：地区集会所など。

○担当：管理栄養士・歯科衛生士・レクリエーション担当・音楽担当・おしゃれ講座担当

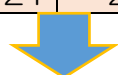
○実施内容：①栄養改善事業・・・栄養に関する講話及び調理実習。

②口腔機能向上事業・・・口腔機能に関する講話と実践、レクリエーション、歌とリズム音楽を楽しもう、おしゃれ講座を組み合わせる。

③口腔機能向上事業ショートプログラム・・・百歳体操に合わせて行うカミカミ体操で口腔機能向上を図る

昨年から新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、例年に比較すると事業の休止や、再開が6月になる等事業は70%減少しました。大崎市の新型コロナウイルス感染症対策に準じて今年度も対策を万全に行い事業を行っています。

	栄養改善事業		口腔機能向上事業		口腔機能向上事業ショートプログラム		合計		契約数	備考
	回数	参加数	回数	参加数	回数	参加数	回数	参加数		
H22	9	161					9	161		
H23	39	685					39	685		
H24	37	560	22	276			59	836		
H25	34	538	26	415			60	953		
H26	36	593	25	409			61	1002		入札開始
H27	36	525	23	346			59	871	195	
H28	56	954	77	1392			133	2346	195	
H29	102	1550	71	1189	8	129	173	2739	195	
H30	0	0	67	985	11	129	78	1114	120	栄養なし
R1	71	1189	102	1550	8	129	173	2868	195	3月：コロナ禍で中止
R2	15	235	24	276	9	104	48	615	195	年間コロナ対策実施



口腔機能向上教室の内訳	H30		R1		R2	
	回数	参加数	回数	参加数	回数	参加数
口腔機能向上・レクリエーション	29	450	41	592	13	144
口腔機能向上・音楽療法	28	431	36	586	9	105
口腔機能向上・おしゃれ講座	10	104	25	362	2	27
合計	67	985	102	1550	24	276

<栄養改善事業>

管理栄養士 関 節子

講話「自分の身体を考えよう」と、地域の方々と一緒に「作って食べる」事により美味しく・楽しい時間を共有できる私たちスタッフにとっても、地域の方々からの学びが大きい事業です。令和元年度後半から新型コロナウイルス感染症の蔓延により、一緒に作る事・一緒に食べる事が出来なくなりました。地域に行く回数は少なくなってしまいましたが、テーマ「人生100才時代に向けて」とし、エプロンシアター等を使いながら講話をする事により、調理実習では見えなかったお一人お一人の自覚症状や課題が見えるようになりました。新たな発見でした。受講者からは調理実習が無くて寂しいが、口から食べる事の大切さや自分の身体や食べ方がわかって良かったと言っています。

<口腔機能向上事業>

歯科衛生士 遠藤 英子

令和2年度の介護予防普及啓発事業はコロナ禍でキャンセルが相次ぎ、残念でした。感染対策をして開催された会場もあり、ショートプログラム9回を含めて33回実施しました。

高齢者の皆さんが集まって交流する大切な機会が確保されるのは嬉しく、パピィート大崎のスタッフとして感染対策をしっかりとって参加させていただきました。音楽やレクリエーション・おしゃれ講座は各担当講師が制約のある中で工夫して実施しました。

昨年度の普及啓発事業では皆さん「オーラルフレイル」のチェックをしていただきました。ささいな口の周りの衰え方が積み重なるとオーラルフレイル（口腔虚弱）の危険性が高くなるので、早めに気づいて対策をすることが「いつまでもおいしく食べて元気に長生きする」ために大切なことを感じていただけたようでした。自粛生活が続く危険度が高くなる傾向がみられました。

ショートプログラムでは「カミカミ百歳体操」のDVDを見ながら十分な距離をとり、対面にならないように気をつけて実施しました。口元がマスクで覆われて説明にしにくいということもなく、動画の利便性を痛感しました。

今年度もマスクが欠かせない日々が続いていますが、新型コロナウイルス感染症が収束し、皆が集まって大きな声で歌ったり、おしゃべりしたりできる日を楽しみに、今できる範囲での活動を続けていきたいと思っております。



保育士 岩崎 三枝

【おしゃれ講座を担当して】

最初に鏡を準備、顔が写るようにセット、皆さんが思わずニコリ笑顔になります。

①最初におしぼりを使って手を拭く⇒手洗いの実習です。コロナ対策にも役立ちます♥

②おしゃれ度チェック

③眉ペンを使って眉を描く（ブラシで眉を整える）⇒眉ペンは、大崎市役所からのプレゼント。眉ペン1本で表情が変わる♥

④口紅をつける（紅筆を使って）を実践します⇒使い捨ての紅筆を使います♥

日々の生活の中で身だしなみに気を使うことで、心・脳・身体・口腔への効果が期待できるそうです。口紅をつけながら「めんこくなってしまった」「見違えるようになった」「今日はこれからお見合いだ」といった会話が聞かれ、終わった後の笑顔がすごく良いです。化粧は美しくなることへの期待、気持ちを高揚させ、表情を豊かにします。いくつになってもおしゃれを楽しみながら継続して行ってほしいと思っております。男性用プログラムもあります。

【レクリエーション活動を通して】

レクリエーション指導員 市川 文子

介護予防普及啓発の活動に参加して早6年。この仕事の意義を改めて感じながら楽しく参加させていただいております。これまでは、口腔ケアに機能向上を図るためのレクリエーションを工夫してきましたが、コロナ禍のため歌ったり大きな声を出したりするか活動を控えて、脳トレや上下肢を動かすことを中心に「心を元気にする」内容を工夫しています。参加者の健康長寿につながる楽しいレクリエーションを考えて実践していきたいと思っております。

【音楽療法を担当して】

音楽療法士 熊谷 明美

新型コロナウイルス感染症対策として、マスクをしての教室です。歌を最小限にしながら、リトミックやトーンチャイムを使いながら音楽に親んでいただいております。

このコロナ禍の中で外出ができない、3密を考えなければならない等制限が多くあります。

コロナ禍であっても音楽をするとどんな良いことがあるのでしょうか？

大きく分けると、「心への効果」「体への効果」「脳への効果」があると考えています。具体的には

①心への効果 懐かしい歌・季節の歌などで心をリフレッシュ！！

②体への効果 リズムで手、足、体の器官が動いて血行や代謝をアップ！！

③脳への効果 ほど良い刺激が脳を活性化！！

「歌って動いて明るく元気」をモットーに、笑顔になる活動を目指しています。



活動紹介

「ひとびとの 心ふれあう 地域づくり」を目指して



社会福祉法人大崎市社会福祉協議会 古川支所
大崎市社会福祉協議会は、市内7つの地域それぞれに支所を配置し、**んが「住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けていく」**ために必要となる、地域の特性を生かした、さまざまな地域福祉活動や福祉環境の充実に向けた介護福祉サービス事業や障がい福祉サービス事業などを展開しています。

今回は、古川地域を担当する社協古川支所の事業について紹介させていただきます。
社協古川支所では、古川地域内に10の支部社協を設置し、それぞれの地域の民生委員児童委員や行政区長、自治組織の方々が中心となって、**小地域ごとの特色ある地域福祉活動**を実践しています。

近年重点的に進めている地域福祉活動の一つとして、地域での孤立防止や支え合い活動の充実に向けた取り組みを進めています。一人暮らし高齢者や誰かの支えを必要としている方々に対する見守り活動として「**地域見守りネットワーク・いのちのバトン事業**」を平成22年から開始し、現在では、145行政区、1,299名の方々が登録し、地域住民どうしの支え合い・助け合いの取り組みが約10年間にわたって継続されています。

社協古川支所では、古川地域内の福祉環境を充実するために、さまざまな**福祉サービス事業を展開**しており、介護保険サービスについては、①居宅介護支援事業所（ケアマネジャーによる相談・計画作成など）を3事業所、②訪問介護（ホームヘルプサービス）事業、③通所介護（デイサービスセンター）事業を4事業所、④認知症対応型デイサービスセンターを1事業所、⑤特別養護老人ホーム（59名定員）と併設する短期入所（ショートステイ）事業を1施設、大崎市からの受託事業として⑥古川地域包括支援センター（総合相談及び介護予防など）を運営しています。

また、**障がい福祉サービス**については、古川北町に設置している地域活動支援センターを**3事業所運営**し、野菜作りや木工創作、精密作業など利用者の皆さんそれぞれの特徴に応じた活動の場づくりを進めています。

この他に、**高齢者の健康増進や生きがいづくり、介護予防などを目的**とした古川老人福祉センター・趣味の教室の受託運営や農村環境改善センターやシルバーハウジングといったさまざまな事業を展開しています。

こうした取り組みの一つである「**高齢者の生きがいと健康づくり推進事業（通称：いきいきクラブ）**」は、古川地域の高齢者の方々が、いつまでも古川地域で暮らし続けられるために欠かせない、介護予防を視点とした「健康づくり」のための取り組みです。

ハッピーアット大崎の皆さんがこの事業の推進役として、参加している利用者の皆さんの健康増進のみならず、担当する本会職員に対する助言・指導は、職員自身のスキルアップに繋がる大切な機会となっています。こうした全面的なご支援・ご協力に対して改めて感謝申し上げますと共に、引き続き協働による事業の推進をお願いいたします。



いきいきクラブ古川地区 運動教室の様子 2021.8



担当者から一言

いきいきクラブの健康教室は、平成24年から大崎市社会福祉協議会からの受託事業として栄養改善・口腔機能向上・運動機能向上事業を年4回ずつ12回行っています。担当者として毎月参加させていただいています。

古川支所でのいきいきクラブを訪れると、スタッフの方々の参加者に対する声かけが温かく、いつもほっこりしています。

「きょういくときょうよう」が大事とされていますが、温かい言葉がけも気持ちを奮い立たせる大きな要素だと痛感しています。いきいきクラブのメンバーは90歳代・80歳代が多く大崎市の健康寿命を高めています。参加者の皆様方の学びに対する意欲が高く、私共にも大きな刺激となっています。 担当 高橋孝子

リレー投稿 食の思い出



大崎市社会福祉協議会古川支所 いきいきクラブ担当 高橋 みえ子氏

昭和30年代生まれの私は、家は農家で、一昔前までは良く見られた、おっぴさんや叔父などと一緒に暮らす9人家族の大家族で生まれ育ちました。ですから、当然、食の思い出は、大家族で兄妹たちと分け合ったり、奪い合ったりしながら食べた記憶ばかりです。

お正月には、家で飼っている鶏をドキドキしながら捌いて食べたり、庭に育つ栗や柿、梅、無花果、グミ、胡桃、^{くるみ}、^{さくら}、柘榴、アケビなどの自然の恵みを四季を感じながら食べました。冬に凍った木の樽から、氷を割って取り出しながら食べた塩漬した漬け柿は甘酸っぱく何とも言えない美味しさで、今ではなかなか味わえない思い出の味として残っています。

当時、季節ごとに地域で助け合いながら行われていた、田植えや稲刈りなどは、子供の時は、わくわくするお祭りごとのような雰囲気、作業後にみんなで集まって御馳走を食べたり、賑やかに話ができる大切な機会でした。私は、御馳走のひとつだったおばあちゃんの稲荷寿司の味付けが大好きで、今の私が作っている稲荷寿司の味付けは、きっとその時に覚えたおばあちゃんの味付けなのかもしれません。

このように、私の食の思い出には、いつもまわりに多くの家族や地域の仲間や友人たちと賑やかに語らいながら食事を楽しんでいる記憶で溢れています。やっぱり食事は、誰かと一緒に話したりしながら食べることで、大切に素敵な記憶になっていくのだと思います。

少し前までは、美味しい蕎麦屋やラーメン店を捜し歩きながら、自分独自の採点基準で点数つけたりすることが私の休日の楽しみでした。コロナ禍の今は、その楽しみもお休みしていますが、早く再開して、私の食の思い出のページを書き足していきたいと思っています。

リレー投稿 私のセブな時間

大崎市社会福祉協議会古川支所 いきいきクラブ担当

私のセブな時間って何かな？と職員3人で話していたところ、偶然にも「美味しいものを食べている時だな～」と声が揃いました。

コロナ禍でなかなか思うように食べ歩きはできませんが、普段よく「あそこにある〇〇が美味しかった」とか、「〇〇を食べたいけど、おすすめのお店はある？」と話しています。若手の職員はSNSなどで見つけた新しいお店の情報を紹介したり、ベテランの職員は昔ながらの渋いお店を教えてください、特にラーメンの話で盛り上がります。

ちょっと遠出して見つけたお店が良かったとか、自分好みの味に巡り会えた時とか美味しく食事をしている時が私たちのセブな時間かなと思います。





昔ながらの秋の果物 ～いちじく～

わたしは昭和生まれのシルバー世代。いちじくは子どもの頃、どこの家にも必ず植えてありました。秋の繁忙期になると子どものおやつは勿論ですが、働き手の若い衆や大人たちが頬張っていたのを見かけました。中が赤くなった実は柔らかでほんのり甘く、いくら食べても飽きませんでした。口が開くとすぐ過熟となり虫が入るので、毎日枝を見てもぎ取るタイミングを計っていたものでした。

いちじくは紀元前からあったとされており、日本には、寛永年間「^{ほうらいし}蓬萊柿」という品種が伝えられています。これが現在の在来種です。宮城県では明治時代から大正時代にかけて栽培が始まりました。

現在は、生食用から加工用までいろいろな品種が栽培されており、夏果と秋果がありますが、県内では丸森町や村田町、蔵王町、南三陸町が主な産地となっていて、9月から10月に身近な直売所に秋果のいちじくが出回ります。

そのほとんどは、主に加工用の青いいちじく「ブルンスウィック」種で、これを栽培しているのは宮城県、福島県、山形県、秋田県の一部のみです。そのため、宮城県では甘露煮にするのが一般的ですが、全国的には珍しい食べ方とされています。

ところで、いちじくはなぜ「無花果」と書くのでしょうか？果実の中に多数の白い小花をつけ、そのまま肥大するので外側からは花が見えないため。ということだそうです。



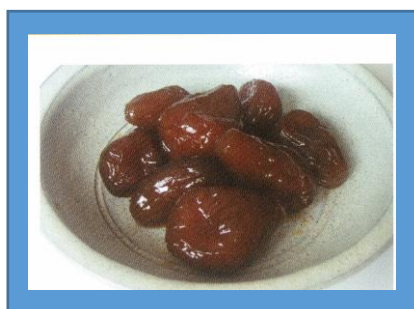
大地の恵みを楽しむ献立

「いちじくの甘露煮」

いちじく 500g
 (過熟しないもの)
 砂糖 300g
 レモン果汁 1/2個

- ① いちじくは洗って軸のところをきれいに切りとり、あくをとるために、熱湯で1～2分茹でてざるにとり水気を切る。(この時薄く皮をむいても良い。)
- ② 鍋にいちじくと砂糖を入れ火にかけ、砂糖が溶けたら弱火にし好みのかたさになるまで煮詰める。
- ③ 最後にレモン汁を加える。

※好みで赤ワインを1/2カップ加えても良い。
 ※過熟すると実が割れ煮くずれする。



人生 100 年時代 ④ ハッピーロマン会の活動

人生 100 年時代に向けて考えたい事として、①意欲を持って生活する ②楽しみを持つ ③人々との交流を図る ④バランスよく食べる ⑤おいしく食べるために口腔ケアをしっかりとる ⑥いつまでも自分の足で歩けるように筋力アップを図るという事を提案してきました。

それに加え、年齢により変わる時々の状況に応じて、新しいことを学び、新しいスキルを身につけていく広い視野を持つことが必要であると言われていています。そんな活動をしている方々を紹介いたします。

ごあいさつ

ハッピーロマン会 会長 佐藤 勲

いきいき百歳体操の集いを吉野作造記念館ラウンジで開始して、早いもので5年になります。参加者は、いろいろな地域の人たちです。年間35回延べ315名の参加で、継続してきました。

令和3年7月1日大崎市長様から継続団体として**“金賞”**を受賞しました。これまでハッピーロマン会は、百歳体操後は、お茶やコーヒー等を飲みながら雑談したり、声を出して文章を読んだり、ゲームをしたり楽しい時を過ごしていました。今は、新型コロナウイルスがなかなか収束せず、この体操後の楽しい時間がとれません。いつになったらあの楽しい時間を再開できるのか、その日が来るのを待ち遠しく思っています。

百歳体操に参加して 結城 敬子氏

百歳体操に参加して良かったことは、多くの友達や素敵なスタッフさんと出会えたことです。

体操も無理なくでき、毎週楽しくできるので、毎日の生活に加えてずっと楽しくやっていきたいと思っています。

回を重ねるごとに自分も元気になっているのを感じています。ありがとうございます。

今後ともよろしく願いいたします。

わたしの百歳体操

相澤 金子氏

私の百歳体操の始まりは平成30年11月6日田尻総合体育館での交流会でした。

重りも初めは左右一個でしたが今は5個ずつの重りでがんばっています。いつでも自分が行きたい場所に出歩き、心も体も元気でいられることの楽しさを感じています。体操後の皆さんとの談話は何よりの楽しみです。知り合えた皆さんとの絆が今後も継続できると思っています。

今はコロナウイルス感染症予防で思うように行動できませんが一日も早い収束を願いながら、体操を続けていきたいと思っています。

「寿命という有効期限まで」

菅原憲一郎氏

私たちの百歳体操は「脳トレ塾」の参加が縁で、吉野作造記念館のラウンジで毎週金曜日午前9時15分から行っています。

先日、年に一度の体力測定があり、以前の結果と照らし合わせると、大きく数字が上がったということはありません。講師の理学療法士の方に「5年も変わらず維持できているのは素晴らしい！」と声をかけられ「そうか！」と少し納得して落ち着きました。

コロナ禍で現在は体操だけです。体操後、自慢の漬物や旅先の土産などを持ち寄ってのお茶飲み会も楽しみにしています。簡単な計算や音読、数字並べなどの脳トレや介護予防の勉強、介護施設の見学などにも参加しています。

人生100年時代。年を重ねることは自然なことです。気持ちよく年を重ね、いきいきと過ごすために、常に自分の身体の声を聴き、身体に愛情を注ぎ、身体に感謝しながら「生き生き百歳体操」を楽しく続けていきたいと思っています。



ラウンジ前の花壇に咲く
バラの花



ラウンジでの体操

会員の方から寄贈されたテレビは、画面が大きいので後方からでもくっきり見えます。

<担当者から>

高橋 孝子 岩崎 三枝 松下 節子

新型コロナ禍前には、当会がラウンジで行ってきた「食育活動」や「子ども食堂」等の活動では、ボランティアとして積極的に子どもたちや若いお母さんたちと関わっていただきました。また、ラウンジ周りの花壇に咲くバラの剪定や草むしり、季節ごとの追肥など豊富な経験、知識をさりげなく役立てていただいています。

80再代の会員一人一人、自分を律し、自分の経験を誰かのためにさりげなく生かす皆さんの姿は、いつも眩しいほど多くを学ばせていただいています。

人生100年時代、いきいきと過ごすことは毎日の積み重ねと、私たちの目標の皆さんです。

今日の一句（田舎弁護士の駄弁句 93）

定年は 貧乏人と 病人を

増やすと言われ うむと 肯く



令和3年4月23日 あおぞらうきよのすて 青空浮世之捨（監事）

「ハッピー通信」で毎回紹介している「今日の一句」は岩手県一関市にお住いの弁護士 千田 寛さん（当会監事）が発行する事務所より「まとはすれ的外」に掲載されているものです。今回の一句について説明文も併せて、紹介させていただきます。

いゆう 畏友松村論先生の『老後の健康と経済不安』の中に「日本の定年退職制度は、病人と貧乏人、つまり不幸な人を増やすだけですから早く廃止するべき」とあります。そう言われればそうかもしれない、思わず「うむ」と肯いていました。

松村先生は「することがないことほどつらいことはないのですね。することがないからパチンコばかりしている老人もいるようです」「定年後の最大の日課は病院通い。その他は、散歩、パチンコ、カラオケ、それにお酒を飲むだけ。これでは貧乏人と病人が増えます。」と続けています。

「人間は生きている限り人生の現役である。定年になったからと言って、生きている以上は人生を止めることは出来ない。定年に振り回されてはならない」と言うことになりそうです。人生100年時代の定年は「その職場を辞めた」というだけです。「仕事を辞めた」と考えるのは早計です。その先こそ本番です。定年までの経験を活かして、世のため、ひとのために役立つのは退職後が本番なのです。

お知らせ

『大崎市介護家族教室及び家族介護交流事業』

〇●。話したい・誰に相談したらいいの？そんな悩みに対応いたします。●〇〇

- 1 場所：吉野作造記念館 講座室 大崎市古川福沼1-2-3
- 2 時間：午前10時～11時30分

<定例交流会> 大崎市広報をご覧ください

開催日	内容	講師等
10月 8日（金）	薬の正しい飲み方・管理について	薬剤師
11月 5日（金）	知っておきたい在宅医療の知識と使い方	大崎医師会介護連携支援センター
11月12日（金）	地域でささえたい 認知症対応の工夫について	保健師
12月10日（金）	食介護できるだけ家族と同じものを食べさせたい>	管理栄養士

☆保健師・管理栄養士・ケアマネジャーの個別相談もごさいます。

☆コロナ対策として、マスクの着用。

☆参加者限定11名。

☆問い合わせ・申込先 ☎090-8610-8870 特定非営利活動法人ハッピーート大崎

☆吉野作造記念館から☆

みんなで決める

絵本「ケロッキーブーとおおきなあな」主権者の自覚を促す絵本が発刊されました

ケロロ、ウッキー、ブーカが暮らす動物たちの森。そこにとつぜんぽっかりと空いたおおきなあな。このあなをなににつかうといいのだろうか？森のみんなにはどんな意見があるんでしょうか。そこに現れたのは、森の相談役・サクゾウさん。販売場所：吉野作造記念館・市内書店

原画展のお知らせ：10/5（火）～17（日） 場所：吉野作造記念館 入場料無料



編集後記

コロナウイルス感染症による緊急事態宣言と蔓延防止重点措置が解除され、明るい兆しが見えて来たように感じています。でも、油断は禁物。

黄金色に実った稲穂は刈り入れの時を迎え、何故か「庭払い」「かっきり」があったことを思い出し、年中行事と食は関わりが深く、そこには賑わいがあったことを思い出しています。

今号の発行にあたりご協力をいただきました関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。今後ともよろしく願い申し上げます。（広報委員 木村・千葉・岩崎（望）・千島）